

社内外の声を活かします

三井化学グループでは、今後のCSR活動や報告書の改善に反映させるため、広く社内外の方々からご意見をいただくアンケートを実施しています。『CSR報告書2008』へのアンケートは、2009年3月31日現在で、合計392件（社外101件、社内291件）のご回答をいただきました。貴重なご意見、ご感想をありがとうございました。アンケート結果の詳細は、Webサイトをご覧ください。

社外の皆様からのご意見

アンケートに寄せられたご意見・ご感想(一部)

- 報告書としてはよいかもしれませんが、読み物としては分量が多くてくたびれました。(お客様)
- トップメッセージが秀逸である。「3軸業績評価」、「社員全体のCSR推進」は特によい。(学生)
- 特集記事が充実していて興味深い。(企業のCSR担当)
- 貴社はCO₂排出量が大きいため、環境負荷低減にいつその努力を望む。(お客様)
- 沙漠の緑化で結果的に日本の黄砂も減るので、環境問題は重要だと思います。(お客様)
- 今後とも企業の特徴(化学)を活かした環境への積極的な取り組みを期待しています。(お客様)
- 三井化学グループの製品が日常のあらゆるものに関係していて興味深かった。(お客様)
- 社員を主体とした「CSRサポーター制度」「夢トーク」は非常に面白いです。(企業のCSR担当者)

『CSR報告書2008』にいただいた第三者意見(要約)

デイヴィス スコット氏
(立教大学教授)

- グランドデザインで明確にされた経済・環境・社会の3軸経営の方針に基づいて、化学メーカーとして社会に貢献していくという使命の達成を目指した真剣な姿勢が読み取れる。
- 日本企業のCSRレポートにおいては、マイナス情報が盛り込まれることはめったにないが、社会、環境パフォーマンスの目標達成率が70%未満のものは不十分とみなすなど、客観的な自己評価を実施していることは評価できる。
- 社員の参加を通じたCSRを推進しており、社員の密接な関与とその重要な役割はCSRサポーター制度に現れている。
- 人材マネジメント方針に基づいて、会社が社員に求めるだけにとどまらず、社員の幸福と成長のための人的資源管理についても具体的に述べている点は評価できる。

カール ハイイツ フォイヤヘート氏
(神戸山手大学客員教授)

- 収益と環境目標を目指す「グランドデザイン」が三井化学の経営の羅針盤になっていることは、ステークホルダーにとってわかりやすい。
- 例えば、環境では、GHG原単位指数と産業廃棄物埋立量の削減という2つの目標を明記し、そのために非化石原料活用技術の開発に注力していくというのは注目すべき決定であり、今後の進展を楽しみにしている。
- 社員一人ひとりが取り組める環境づくりに注力し、CSRサポーターが活動の核として活躍できる状況は目をみはるものがある。
- 工場見学の機会があり、各担当者の思いが細部まで浸透しているという感触を得ることができた。

『CSR報告書2009』に取り入れた主な改善点

- ▶ 冊子を36ページに減らし、レイアウトなどを工夫し、見やすさをさらに追求しました。
- ▶ 詳細な活動内容やデータ類などはWebサイトに移し、いつその充実を図りました。
- ▶ CSR活動の大きな柱であるサポーター制度については、引き続き情報発信しています。
- ▶ 目指すべき企業グループ像である「化学」「革新」「夢」を特集テーマとし、よりわかりやすく取り組みをご紹介します。
- ▶ CSRの取り組みが独りよがりになることのないよう、目標と実績をできる限り客観的に評価しています。
- ▶ ページの冒頭に2008年度の目標と実績、2009年度の課題を掲載、主な取り組みを本文でご紹介する構成とし、PDCAによるCSR活動をご理解いただけるよう工夫しました。



2009
Webサイト

CSR(環境・社会)報告 ▶ 社内外の声を活かします

関連情報

- ▶ 『CSR報告書2008』アンケート集計結果
- ▶ 『CSR報告書2009』に取り入れた主な改善点

▶ 社外の皆様からのご意見